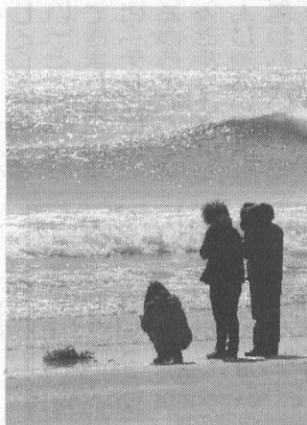


施設スタッフが救急車



(写真はイメージです)

ところが、Hさんの
望みはかなえられませ
んでした。彼女が老衰
で呼吸が停止した時、
施設スタッフが救急車

88歳で旅立たれたH
さん。彼女はある特別
養護老人ホーム（特
養）の入居者でした。
その特養は、4年前

に「くなられたご主人
が最期の時を過ごされ
た場所。「ここがウチ
のついのすみかや。主
人の時のように、ここ
で自然に逝きたい」と、
生前よく話されてい
たそうです。

医者も知らない平穏死



連載②

長尾和宏 長尾クリニック院長。日本尊厳死協会副理事長。著書に「『平穏死』10の条件」など。

を要請。最初の病院は
満床で断られ、2軒目
の病院へ搬送された時
には、完全に呼吸停止

してしまった。

しかし、その病院で
は「初めての患者さん
だから」と死亡診断書

を書いてもらえません

結果、警察から要請

を書いてもらえたが、
そこまでして「お母ち
ゃんにつらい思いをさ

れられ、娘さんは事情
が最期の時に、お母ち
ゃんにつらい思いをさ

れられ、娘さんは事情
が最期の時に、お母ち
ゃんにつらい思いをさ

れられ、娘さんは事情
が最期の時に、お母ち
ゃんにつらい思いをさ

れられ、娘さんは事情
が最期の時に、お母ち
ゃんにつらい思いをさ

近づくと、救急車を要
請するケースが珍しく
ありません。患者さん
の容体が急変した時、
主治医が「もう寿命だ
し、延命治療を望んで
いない患者さんな

か、「不審死の可能性
死ではなく老衰死」と
し、延命治療を望んで
いない患者さんな
れば、施設でも平穏死

かれたままでした。そ
うです。

これは人から聞いた
話です。しかし同様の
ケースを、これまでに
何度も聞いたことがあります。

特養や老人保健施
設、療養病床、グループ
ホームなどの「施設」
では、入居者の最期が
なってしまいます。